

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪夕陽丘学園短期大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカユウヒガオカガクエンタンキダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F227310108437
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立短期大学
	科目名	企業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
	学部・研究科等名	キャリア創造学科
	担当教職員名・役職	神殿織江准教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	11
	受入企業等数	11
	受入企業等名	株式会社オンワード樫山、スイスホテル南海大阪、株式会社セントラルフルーツ、株式会社パソナグループ、ナカザワ建販株式会社、田辺三菱製薬プロビジョン株式会社、司法書士事務所ともえみ、株式会社アルゴセキュリティ、株式会社アウトワンヤマイチ、株式会社近鉄百貨店、株式会社エムズプランニング
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 2.有給インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	○何のためにインターンシップに参加するのか(目的)、その目的を達成した具体的な姿を目標として言語化し、その目的・目標を達成するためにどのような方針で、具体的に何をするのかをスケジュールを含め明らかにする(事前学習の徹底) ○受入れ企業と打ち合わせた業務(ライン業務、スタッフ業務、ラインスタッフ業務)に取り組みながら、学生が言語化した目的、目標、方針、実行項目を学生自身で確認、振り返るためのインターンシップノート記入する。インターンシップノートをコミュニケーションツールにして職場の社員のコメント・指導をもらう
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	短期大学 1年

②		短期大学 2年
要素③	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	短期大学 その他
	2-5.上記回答内容に関する詳細	<p>キャリア創造学科 産学連携キャリア創造コースの学生は必修となる。 1年生後期に3~4ヶ月 無休で3社~4社の企業実習（インターンシップ）を行う 2年生前期に約4ヶ月 1社に絞りに有給インターンシップに取り組む 2年生後期に、受入れ企業を招き、卒業研究としてインターンシップ成果発表を行う</p>
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	<p>1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている</p> <p>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている</p> <p>3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている</p> <p>4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している</p>
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	<p>1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている</p> <p>2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている</p> <p>3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている</p>
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	<p>1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している</p> <p>2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している</p>
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	<p>全30回の事前授業内で、目的、目標、方針、実行項目をインターンシップ計画書として作成し、併せて、受入れ企業の経営理念、事業概要、商品、特色などについて研究し、受入れ企業の方々の前でプレゼン発表する。</p> <p>インターンシップ中に、必ず実行しなければならないこと（社員マナー、守秘義務など）を理解、訓練する</p>
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	<p>インターンシップ中に記述してきた「インターンシップノート」をもとに、長期のインターンシップを振り返り、成果と課題を言語化し、クラス内でプレゼン発表し、学生同士でフィードバックし合う。さらに、受入れ企業を招き、卒業研究としてインターンシップ成果発表を行う。企業だけでなく、学生の親族、友人、恩師などを招く。</p>

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	<p>インターンシップ期間中、3週間に1回程度、担当教員による現場訪問をし、社員を交えて学生との面談をする。さらに、週に1日は、大学教室に集まり、学生同士の情報共有やディスカッションを行い、適宜、担当教員から指導・助言を行う。</p> <p>また、企業と担当教員、学生と担当教員のホットラインを機能させ、企業と学生のコミュニケーションを助けるとともに、学生のエンカレッジメントに注力する</p>
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	4.その他
4-3.上記回答内容に関する詳細	学生が自己評価したものを企業スーパーバイザに提出、複数の社員より評価	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	有給による4ヶ月間のインターンシップ
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
5-2.「4.その他」の実施期間の内容		
5-3.上記回答内容に関する詳細	1年生後期に、受入れ企業10社に、3-4ヶ月に渡り、事前学習をクリアした複数の学生を受入れていただき、学生は、1ヶ月のローテーションで3社から4社でインターンシップを行う	
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している

<b>要素⑥</b>		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
		6.企業と協働して、P D C Aを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	<p>インターンシップカリキュラムは大学主導でプログラムする。しかし、企業には、教室やオンラインで、事前に学生とも接してもらい、同時に企業の要望を取り入れながら教育プログラムの質向上を図る。</p> <p>インターンシップ初日に、学生が準備したインターンシップ計画書のプレゼン機会を設けていただき、フィードバックもいただく。</p> <p>インターンシップ期間中に学生が作成するインターンシップノートについて、企業担当者のチェックをお願いし、可能であれば、コメント記入をお願いする。また、月に最低1回は学生との面談を組入れていただく。</p>
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://syllabus.oyg.ac.jp/syllabus/search.html">http://syllabus.oyg.ac.jp/syllabus/search.html</a> <a href="https://www.oyg.ac.jp/is/course/careersouzou/sangakurenkei/">https://www.oyg.ac.jp/is/course/careersouzou/sangakurenkei/</a>
<b>問い合わせ先</b>	大学等名	大阪夕陽丘学園短期大学
	担当部署名	キャリア創造学科
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	神殿織江
	電話番号	06-6771-5183
	メールアドレス	<a href="mailto:o.kodono@oyg.ac.jp">o.kodono@oyg.ac.jp</a>